

## 付録

- i 年齢階級別自殺者数の状況
- ii 他県と比較した本県の自殺者数の状況
- iii 自殺対策に関する参考統計資料

## もくじ

	ページ
i 年齢階級別自殺者数の状況	1
1 19歳以下	1
2 20歳代	6
3 30歳代	11
4 40歳代	16
5 50歳代	21
6 60歳代	26
7 70歳代	31
8 80歳以上	36
ii 他県と比較した本県の自殺者数の状況	41
1 年齢階級別の状況	41
2 職業別の状況	42
3 原因・動機別の状況	43
4 手段別の状況	44
5 場所別の状況	45
6 自殺未遂歴の状況	46
7 同居人の有無の状況	47
iii 自殺対策に関する参考統計資料	48

### 【利用上の注意】

- 文中、警察庁「自殺統計」とは、神奈川県警察本部から提供された自殺統計原票に基づく集計データを指す。
- 特に注釈のない限り、自殺統計のうち神奈川県分の発見日・発見地集計を利用している。
- 年齢は発見日年齢で集計している。
- 年区分は、1月1日から12月31日までの暦年集計である。
- 2020年の状況を分析するために、自殺統計の多くのデータを2020年と過去5年平均値や過去10年平均値と比較している。過去5年平均は、2015年～2019年の実数を単純平均したものであり、また、過去10年平均を用いている場合は、2011年～2019年の実数を単純平均したものである。
- 図表表記の際に、平均した値に小数がある場合は、表記単位未満を四捨五入して表記している。そのため、構成比の合計が100%とならない場合がある。
- 計数が小さい項目は、増減や増減率が大きく変動する可能性があることや偶然である可能性を否定できないことに留意が必要である。

1 19歳以下

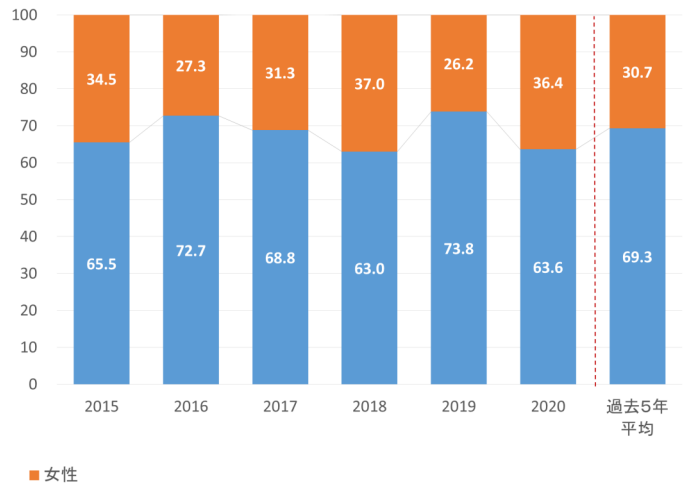
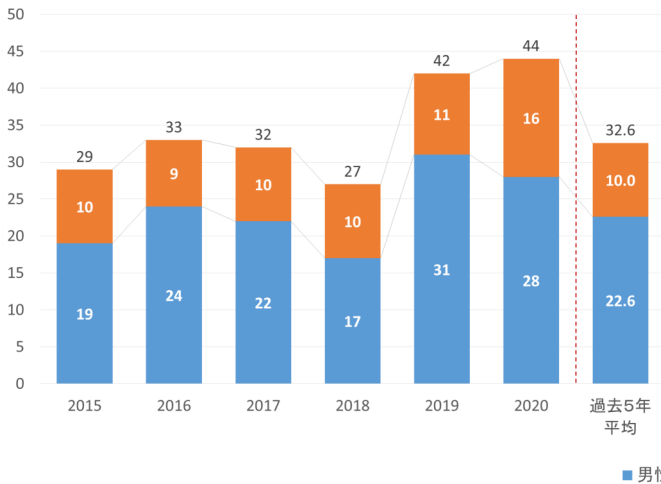
図表 i -01

19歳以下の自殺者数の自殺者数及び構成比

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -01-1 自殺者数 (人)

図表 i -01-2 構成比 (%)



- 2020年における「19歳以下」の自殺者数をみると、44人と2015年以降で最多であり、過去5年平均（32.6人）を上回っている。男女別の自殺者数をみると、2020年の自殺者数は、男女ともに、過去5年平均を上回っており、特に女性は2015年以降で最多となっている（図表 i -01-1）。
- また、2020年における「19歳以下」の自殺者数の男女構成比をみると、女性の割合は36.4%を占め、過去5年平均（30.7%）を上回っている（図表 i -01-2）。

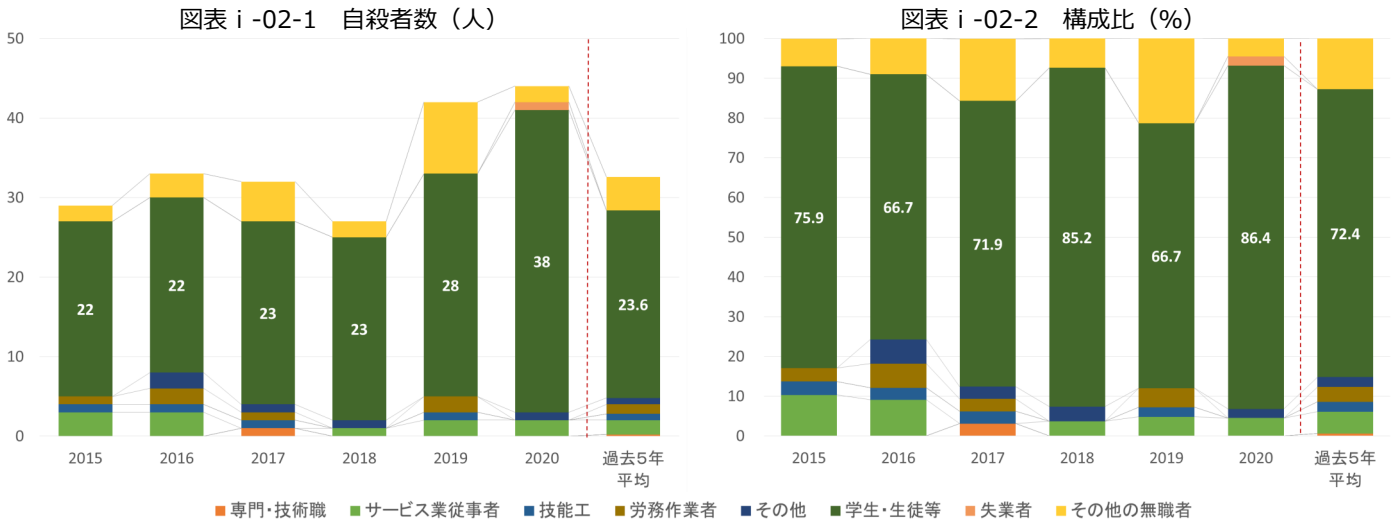
1 19歳以下

図表 i -02

19歳以下の職業別自殺者数及び構成比

総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



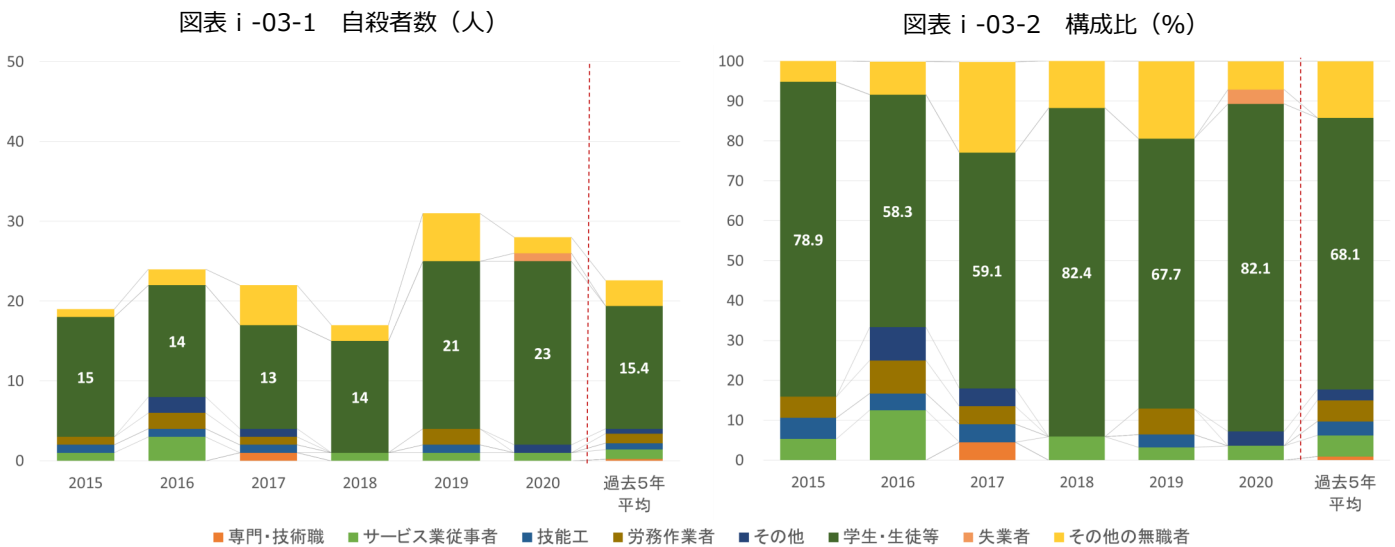
- 2020年における「19歳以下」の職業別の自殺者数をみると、「学生・生徒等」が38人と最も多く、2015年以降で最多となっている。また、過去5年平均（23.6人）も大きく上回っている（図表 i -02-1）。

図表 i -03

19歳以下の職業別自殺者数及び構成比

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 2020年における「19歳以下」の男女別、職業別の自殺者数をみると、男性では「学生・生徒等」が23人と最も多く、過去5年平均（15.4人）を上回っており、また、2015年以降で最多となっている（図表 i -03-1）。

1 19歳以下

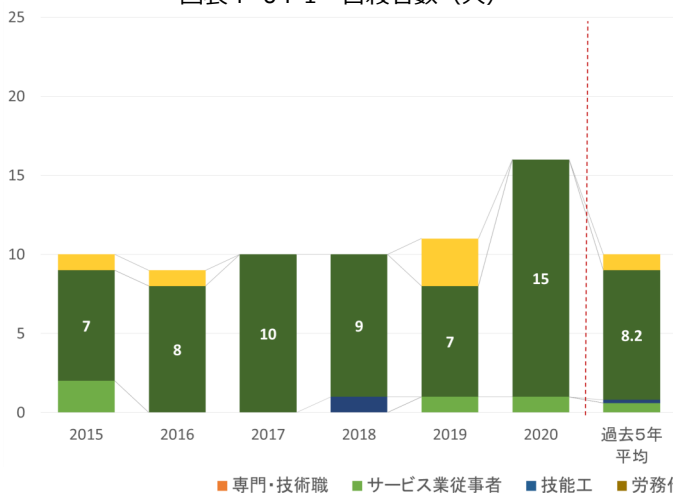
図表 i -04

19歳以下の職業別自殺者数及び構成比

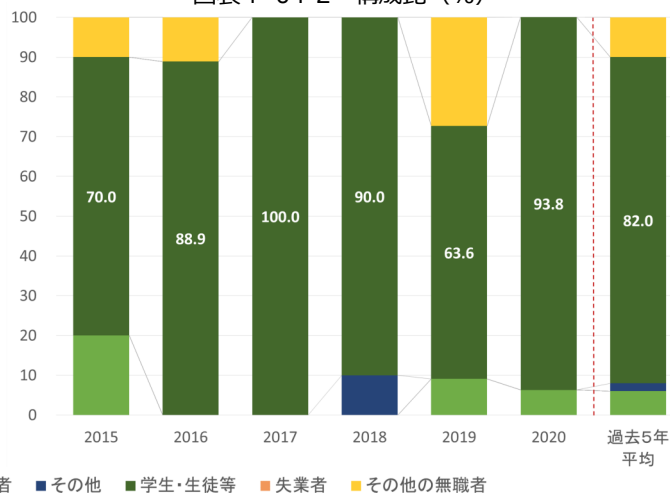
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -04-1 自殺者数 (人)



図表 i -04-2 構成比 (%)



- 2020年における「19歳以下」の男女別、職業別の自殺者数をみると、女性では「学生・生徒等」が15人と最も多く、2015年以降で最多となっている。また、過去5年平均(8.2人)を大きく上回っている(図表 i -04-1)。

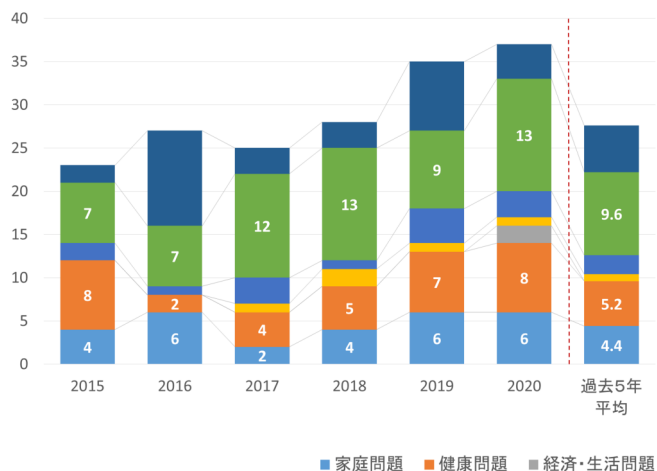
図表 i -05

19歳以下の原因・動機別自殺者数及び構成比

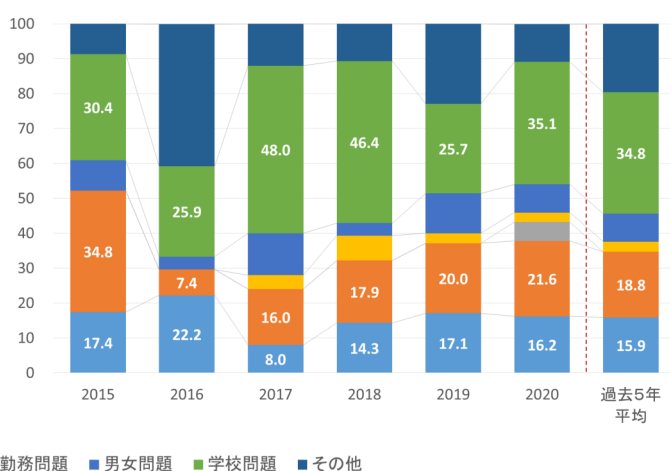
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -05-1 自殺者数 (人)



図表 i -05-2 構成比 (%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「19歳以下」の原因・動機別の自殺者数をみると、「学校問題」(13人)が最も多く、次いで「健康問題」(8人)、「家庭問題」(6人)の順となっている(図表 i -05-1)。
- これらについて構成比をみると、いずれの比率も過去5年平均を上回っている(図表 i -05-2)。

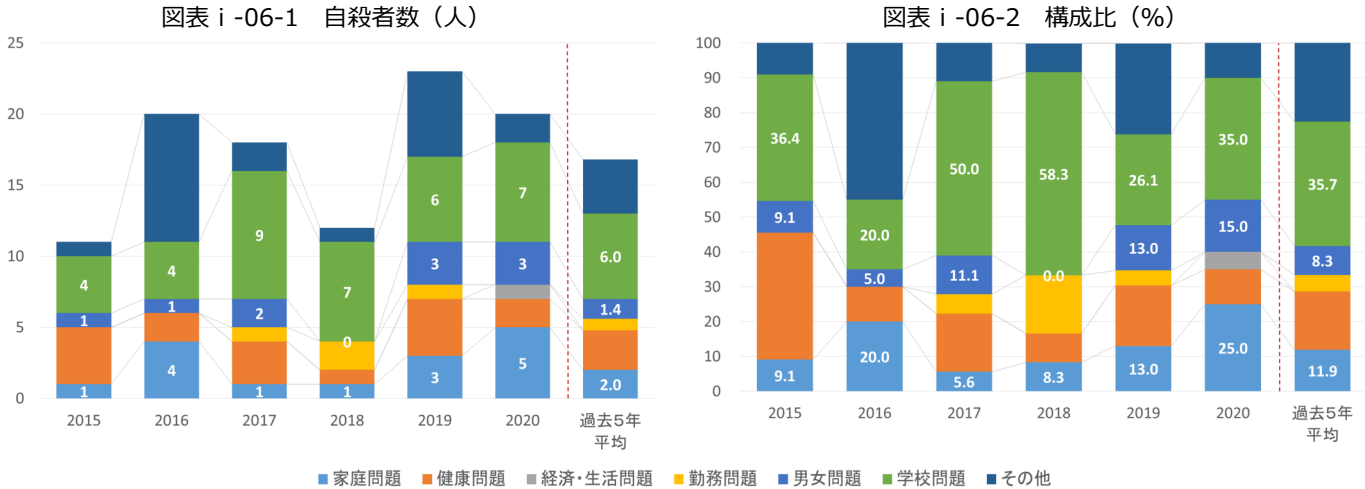
1 19歳以下

図表 i -06

19歳以下の原因・動機別自殺者数及び構成比

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「19歳以下」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、男性では「学校問題」(7人)が最も多く、次いで「家庭問題」(5人)、「男女問題」(3人)の順となっている(図表 i -06-1)。
- これらについて構成比をみると、「家庭問題」と「男女問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -06-2)。

図表 i -07

19歳以下の原因・動機の詳細

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=20	n=23	n=84	
1	その他進路に関する悩み	25.0%	13.0%	11.9%	学校
2	親子関係の不和	15.0%	8.7%	4.8%	家庭
2	失恋	15.0%	8.7%	4.8%	男女
4	孤独感	10.0%	0.0%	2.4%	その他
5	家族の死亡	5.0%	0.0%	0.0%	家庭
5	家族からのしつけ・叱責	5.0%	0.0%	2.4%	家庭
5	病気の悩み・影響(うつ病)	5.0%	4.3%	6.0%	健康
5	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.0%	8.7%	6.0%	健康
5	失業	5.0%	0.0%	0.0%	経済生活
5	入試に関する悩み	5.0%	0.0%	4.8%	学校
5	学校問題その他	5.0%	0.0%	4.8%	学校

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「19歳以下」の男性の主な原因・動機の詳細をみると、「その他進路に関する悩み」が最も多く、次いで「親子関係の不和」・「失恋」の順となっている(図表 i -07)。

1 19歳以下

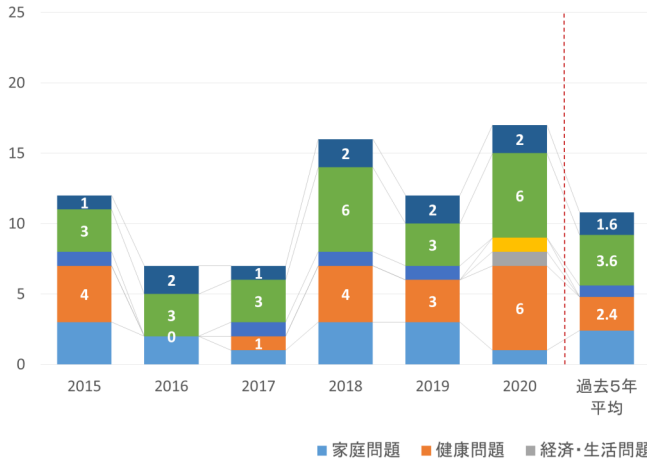
図表 i -08

19歳以下の原因・動機別自殺者数及び構成比

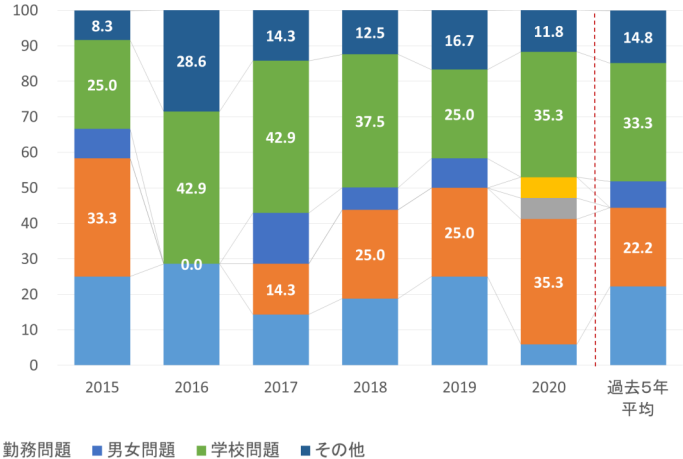
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -08-1 自殺者数 (人)



図表 i -08-2 構成比 (%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「19歳以下」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、女性では「健康問題」(6人)・「学校問題」(6人)が最も多くなっている(図表 i -08-1)。
- これらについて構成比をみると、「健康問題」と「学校問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -08-2)。

図表 i -09

19歳以下の原因・動機の詳細

女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=17	n=12	n=54	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	17.6%	0.0%	7.4%	健康
2	学業不振	11.8%	8.3%	5.6%	学校
2	その他学友との不和	11.8%	16.7%	11.1%	学校
4	家族からのしつけ・叱責	5.9%	8.3%	5.6%	家庭
4	病気の悩み(身体の病気)	5.9%	8.3%	3.7%	健康
4	病気の悩み・影響(統合失調症)	5.9%	0.0%	1.9%	健康
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.9%	8.3%	5.6%	健康
4	生活苦	5.9%	0.0%	0.0%	経済生活
4	職場の人間関係	5.9%	0.0%	0.0%	勤務
4	いじめ	5.9%	0.0%	0.0%	学校
4	学校問題その他	5.9%	0.0%	5.6%	学校
4	孤独感	5.9%	0.0%	3.7%	その他
4	その他問題その他	5.9%	16.7%	9.3%	その他

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「19歳以下」の女性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「学業不振」・「その他学友との不和」の順となっている(図表 i -09)。

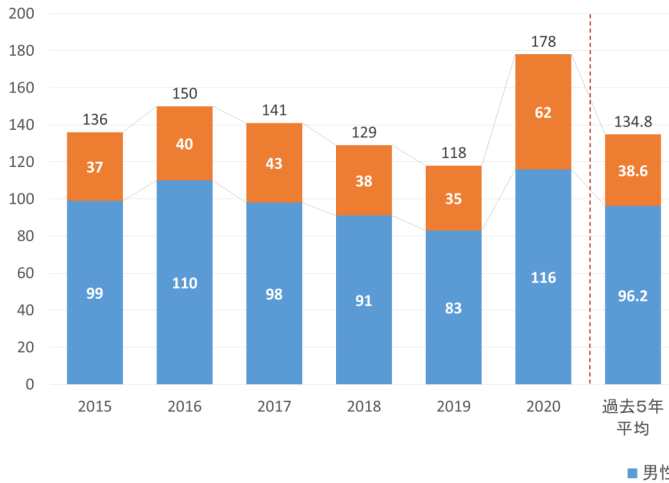
## 2 20歳代

図表 i -10

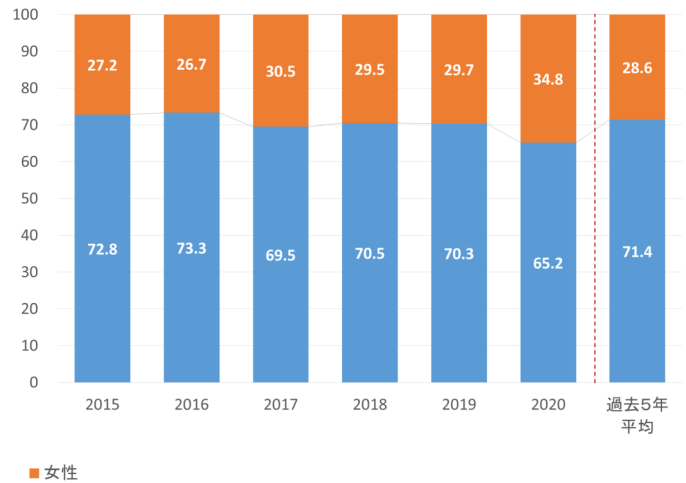
## 20歳代の自殺者数の自殺者数及び構成比

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -10-1 自殺者数 (人)



図表 i -10-2 構成比 (%)



- 2020年における「20歳代」の自殺者数をみると、178人と、2015年以降で最多であり、過去5年平均（134.8人）を上回っている。男女別の自殺者数をみると、男女ともに過去5年平均を上回っている（図表 i -10-1）。
- また、2020年における「20歳代」の自殺者数の男女構成比をみると、女性の割合は34.8%で、2015年以降で最多であり、過去5年平均（28.6%）を上回っている（図表 i -10-2）。



2 20歳代

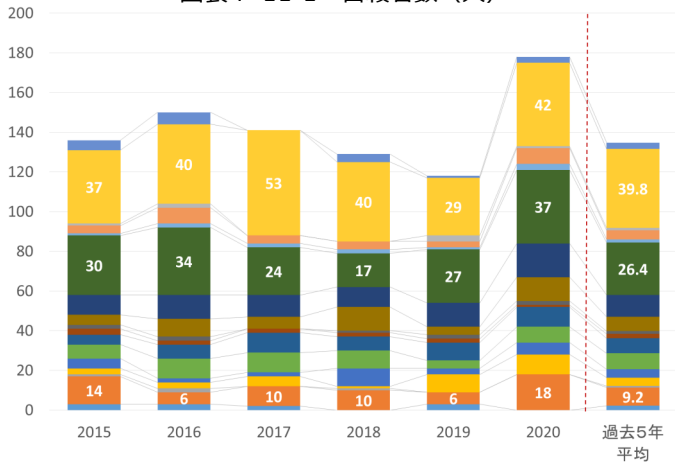
図表 i -11

20歳代の職業別自殺者数及び構成比

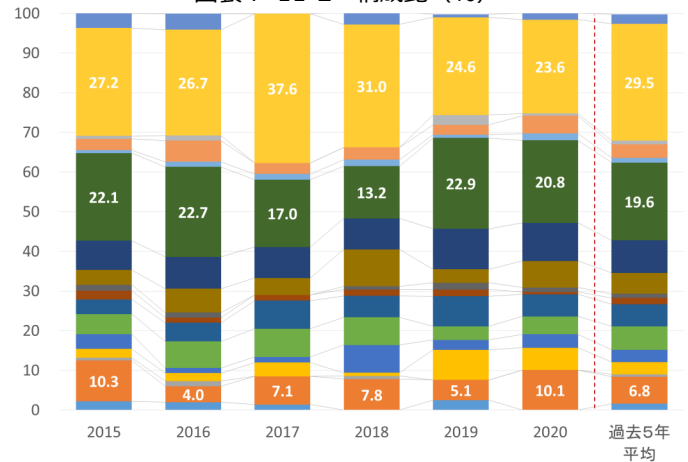
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -11-1 自殺者数 (人)



図表 i -11-2 構成比 (%)



■ 自営業・家族従業者 ■ 専門・技術職 ■ 管理的職業 ■ 事務職 ■ 販売従業者 ■ サービス業従業者  
■ 技能工 ■ 保安従事者 ■ 通信運輸従事者 ■ 労務作業員 ■ その他 ■ 学生・生徒等  
■ 主婦 ■ 失業者 ■ 年金・雇用保険等生活者 ■ その他の無職者 ■ 不詳

- 2020年における「20歳代」の職業別の自殺者数をみると、「その他の無職者」(42人)が最も多く、次いで「学生・生徒等」(37人)、「専門・技術職」(18人)となっており、いずれの自殺者数も過去5年平均を上回っている(図表 i -11-1)。

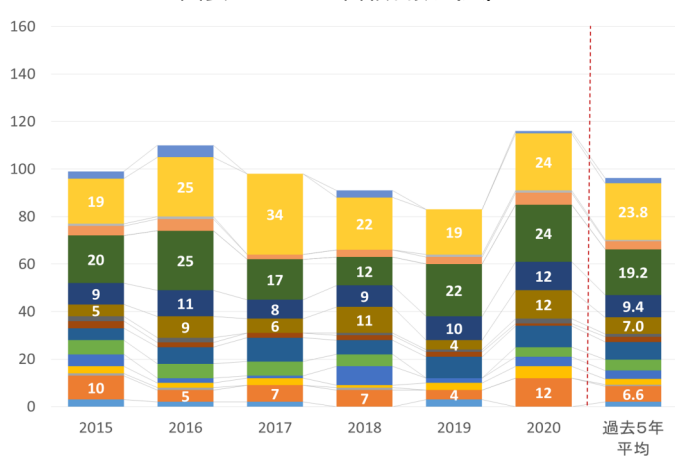
図表 i -12

20歳代の職業別自殺者数及び構成比

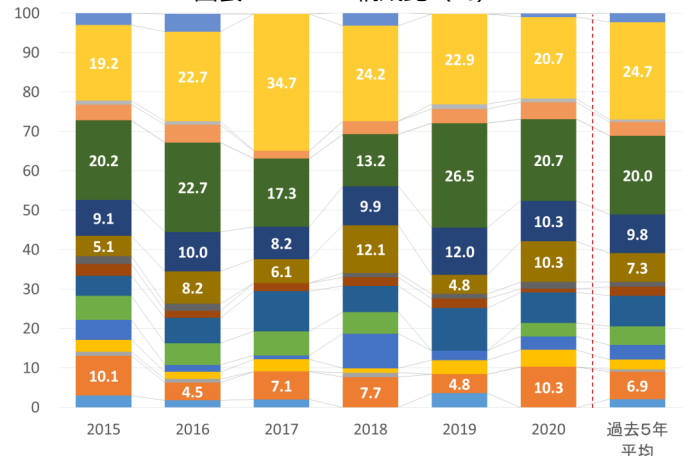
男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -12-1 自殺者数 (人)



図表 i -12-2 構成比 (%)



■ 自営業・家族従業者 ■ 専門・技術職 ■ 管理的職業 ■ 事務職 ■ 販売従業者 ■ サービス業従業者  
■ 技能工 ■ 保安従事者 ■ 通信運輸従事者 ■ 労務作業員 ■ その他 ■ 学生・生徒等  
■ 主婦 ■ 失業者 ■ 年金・雇用保険等生活者 ■ その他の無職者 ■ 不詳

- 2020年における「20歳代」の男女別、職業別の自殺者数をみると、男性では「学生・生徒等」(24人)・「その他の無職者」(24人)が最も多く、次いで「専門・技術職」(12人)・「労務作業員」(12人)・「その他」(12人)となっており、いずれの自殺者数も過去5年平均を上回っている(図表 i -12-1)。

2 20歳代

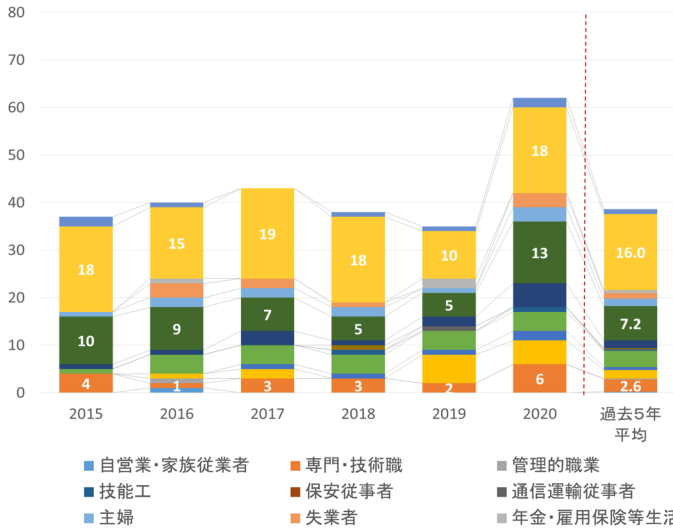
図表 i-13

20歳代の職業別自殺者数及び構成比

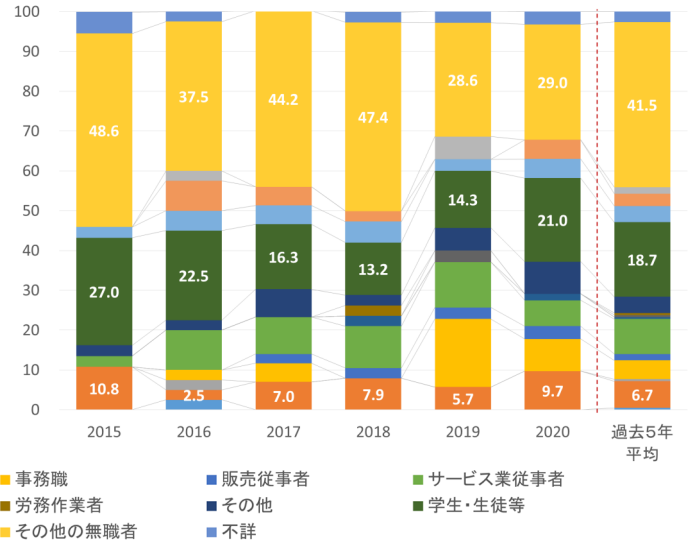
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i-13-1 自殺者数(人)



図表 i-13-2 構成比(%)



- 2020年における「20歳代」の男女別、職業別の自殺者数をみると、女性では「その他の無職者」(18人)が最も多く、次いで「学生・生徒等」(13人)、「専門・技術職」(6人)となっており、いずれの自殺者数も過去5年平均を上回っている(図表 i-13-1)。

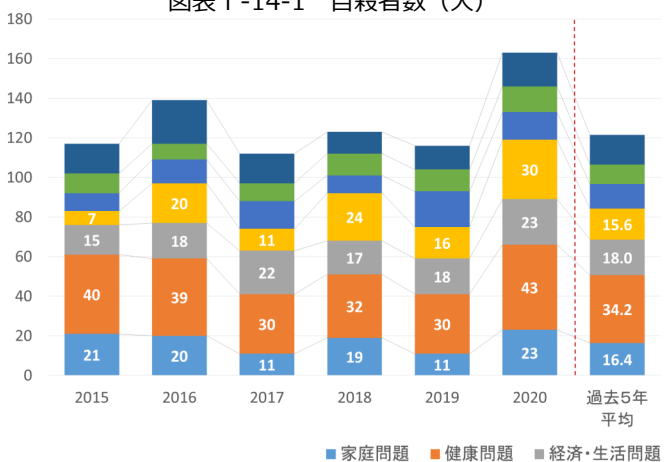
図表 i-14

20歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

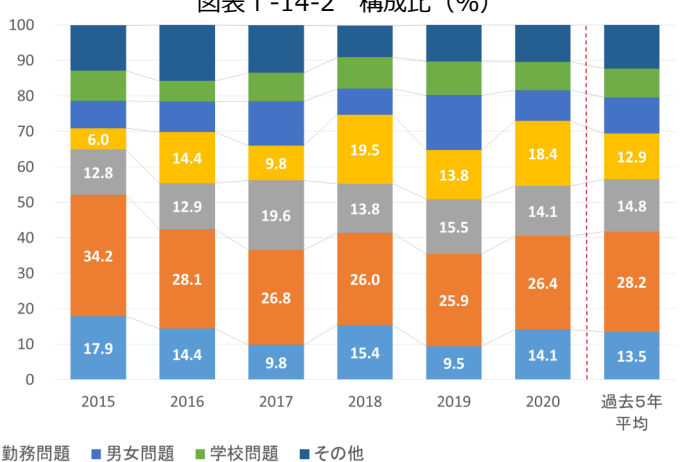
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i-14-1 自殺者数(人)



図表 i-14-2 構成比(%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「20歳代」の原因・動機別の自殺者数をみると、「健康問題」(43人)が最も多く、次いで「勤務問題」(30人)、「家庭問題」(23人)・「経済・生活問題」(23人)の順となっている(図表 i-14-1)。
- これらについて構成比をみると、「勤務問題」と「家庭問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i-14-2)。

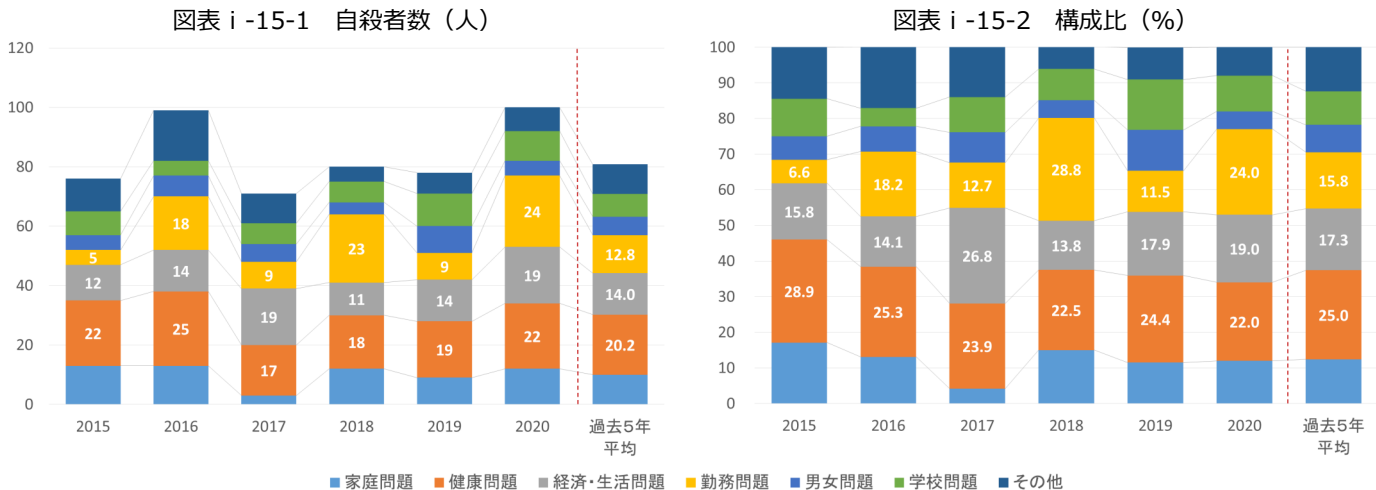
2 20歳代

図表 i -15

20歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「20歳代」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、男性では「勤務問題」(24人)が最も多く、次いで「健康問題」(22人)、「経済・生活問題」(19人)の順となっている(図表 i -15-1)。
- これらについて構成比をみると、「勤務問題」と「経済・生活問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -15-2)。

図表 i -16

20歳代の原因・動機の詳細

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=100	n=78	n=404	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	10.0%	10.3%	9.7%	健康
2	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	8.0%	7.7%	7.4%	健康
3	就職失敗	6.0%	7.7%	5.9%	経済生活
4	負債(その他)	5.0%	2.6%	2.7%	経済生活
4	仕事の失敗	5.0%	1.3%	2.2%	勤務
4	職場の人間関係	5.0%	3.8%	5.0%	勤務
4	職場環境の変化	5.0%	2.6%	3.2%	勤務
4	勤務問題その他	5.0%	1.3%	2.5%	勤務
4	その他進路に関する悩み	5.0%	2.6%	3.0%	学校
10	親子関係の不和	4.0%	1.3%	2.2%	家庭
10	仕事疲れ	4.0%	2.6%	3.0%	勤務
10	失恋	4.0%	9.0%	4.0%	男女
10	学業不振	4.0%	9.0%	4.5%	学校
10	その他問題その他	4.0%	9.0%	9.9%	その他

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「20歳代」の男性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」、「就職失敗」の順となっている(図表 i -16)。

2 20歳代

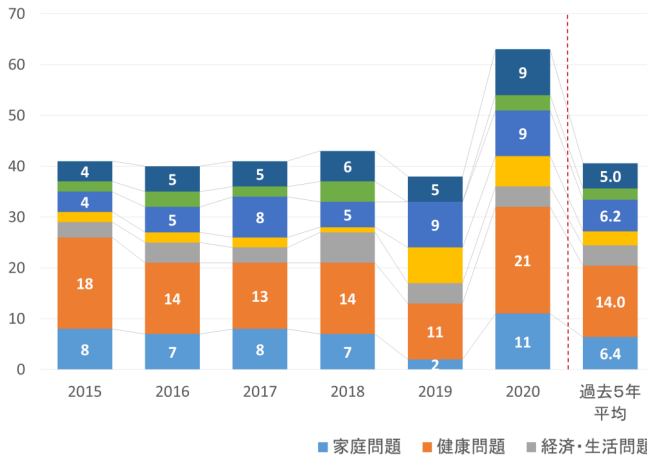
図表 i-17

20歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

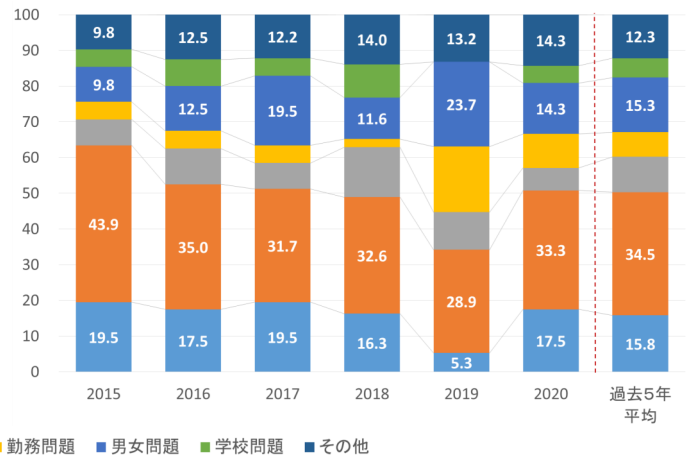
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i-17-1 自殺者数 (人)



図表 i-17-2 構成比 (%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「20歳代」の男女別の原因・動機別の自殺者数をみると、女性では「健康問題」(21人)が最も多く、次いで「家庭問題」(11人)、「男女問題」(9人)・「その他」(9人)の順となっている(図表 i-17-1)。
- これらについて構成比をみると、「家庭問題」と「その他」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i-17-2)。

図表 i-18

20歳代の原因・動機の詳細

女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=63	n=38	n=203	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	20.6%	15.8%	20.7%	健康
2	親子関係の不和	6.3%	0.0%	3.9%	家庭
2	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	6.3%	7.9%	6.4%	健康
2	孤独感	6.3%	0.0%	1.0%	その他
5	失恋	4.8%	5.3%	5.4%	男女
5	その他交際をめぐる悩み	4.8%	7.9%	6.4%	男女
7	家庭問題その他	3.2%	0.0%	2.5%	家庭
7	病気の悩み・影響(統合失調症)	3.2%	0.0%	3.4%	健康
7	健康問題その他	3.2%	0.0%	0.0%	健康
7	就職失敗	3.2%	5.3%	3.4%	経済生活
7	職場の人間関係	3.2%	5.3%	2.0%	勤務
7	勤務問題その他	3.2%	0.0%	0.5%	勤務
7	その他進路に関する悩み	3.2%	0.0%	3.4%	学校
7	その他問題その他	3.2%	10.5%	7.9%	その他

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「20歳代」の女性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「親子関係の不和」・「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」・「孤独感」の順となっている(図表 i-18)。

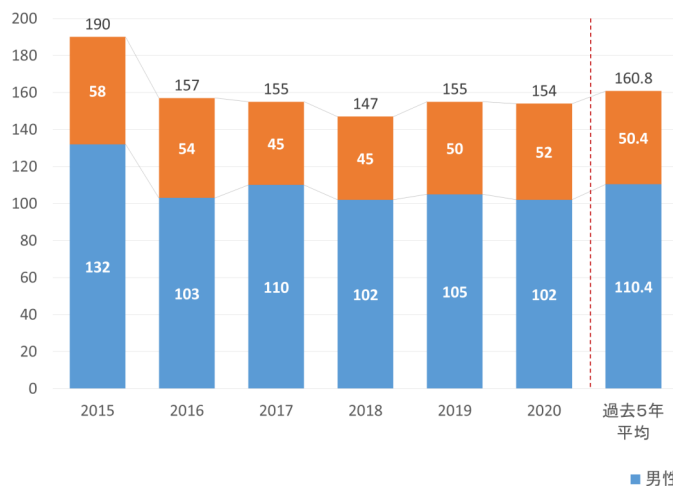
## 3 30歳代

図表 i -19

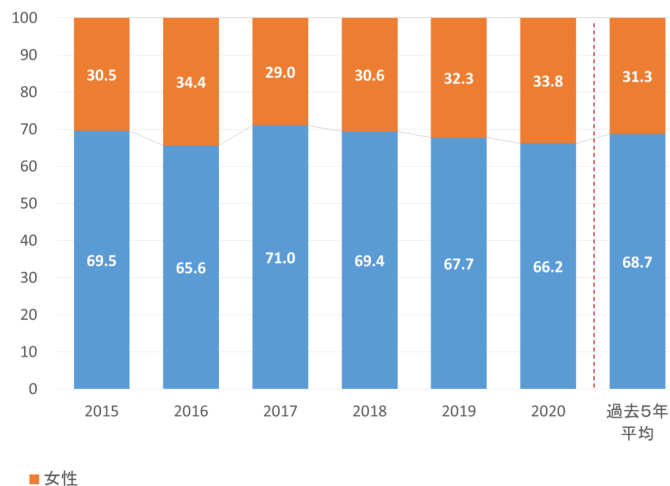
## 30歳代の自殺者数及び構成比

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -19-1 自殺者数 (人)



図表 i -19-2 構成比 (%)



- 2020年における「30歳代」の自殺者数をみると、154人となっており、過去5年平均（160.8人）を下回っている。男女別の自殺者数をみると、男性では過去5年平均を下回る一方、女性では過去5年平均を上回っている（図表 i -19-1）。
- 2020年における「30歳代」の自殺者数の男女構成比をみると、女性の割合は33.8%を占め、過去5年平均（31.3%）を上回っている（図表 i -19-2）。

3 30歳代

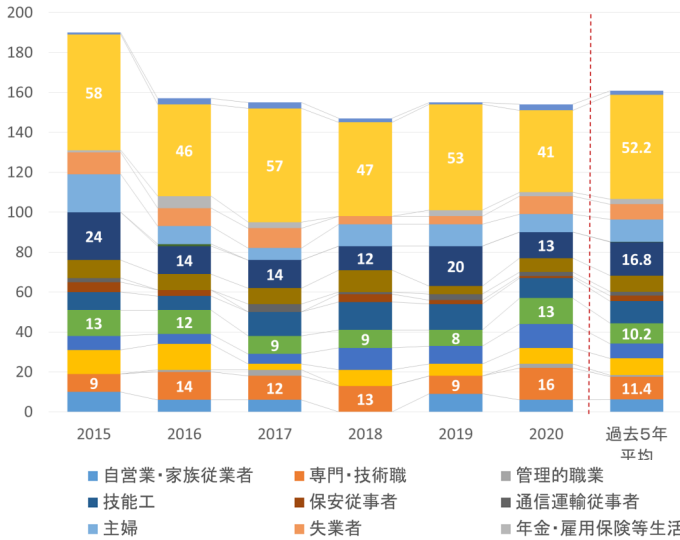
図表 i -20

30歳代の職業別自殺者数及び構成比

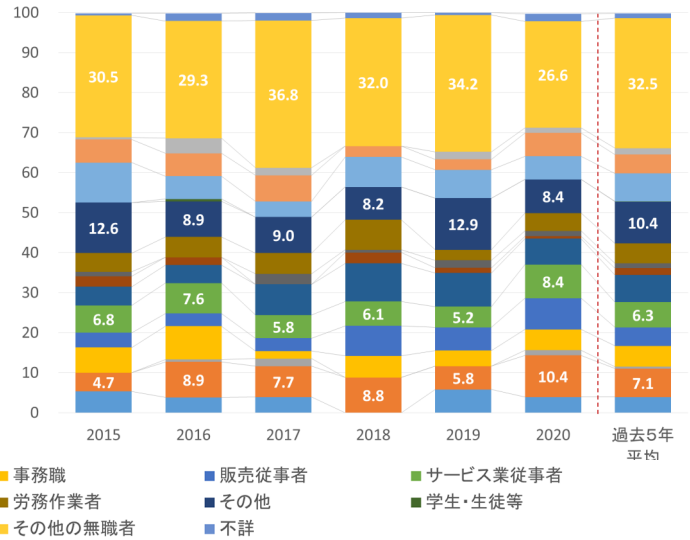
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -20-1 自殺者数 (人)



図表 i -20-2 構成比 (%)



- 2020年における「30歳代」の職業別の自殺者数をみると、「その他の無職者」(41人)が最も多く、次いで「専門・技術職」(16人)、「サービス従業者」(13人)・「その他」(13人)の順となっている。このうち、「専門・技術職」、「サービス従業者」の自殺者数は過去5年平均を上回っている(図表 i -20-1)。

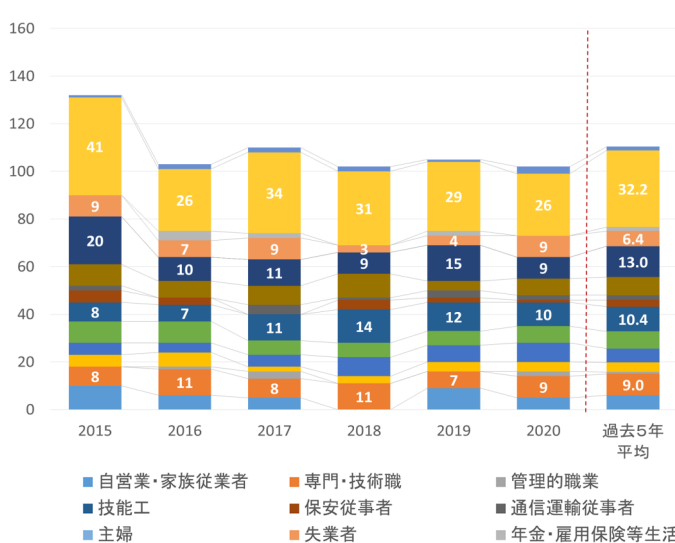
図表 i -21

30歳代の職業別自殺者数及び構成比

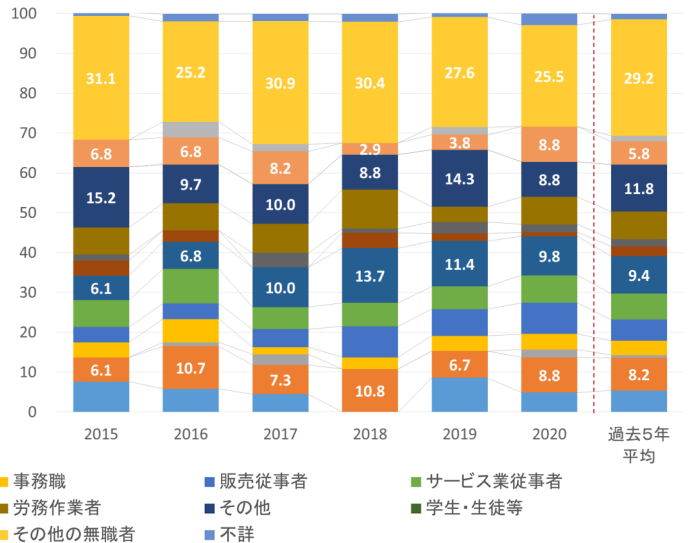
男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -21-1 自殺者数 (人)



図表 i -21-2 構成比 (%)



- 2020年における「30歳代」の男女別、職業別の自殺者数をみると、男性では「その他の無職者」(26人)が最も多く、次いで「技能工」(10人)、「専門・技術職」(9人)・「その他」(9人)・「失業者」(9人)の順となっている。このうち、「失業者」の自殺者数のみ過去5年平均を上回っている(図表 i -21-1)。

3 30歳代

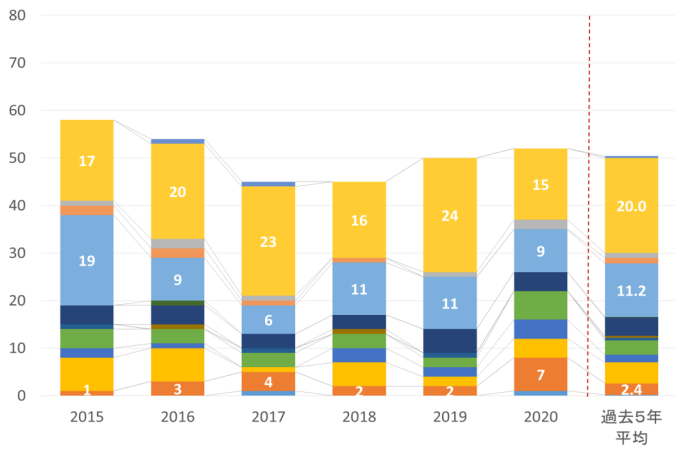
図表 i -22

30歳代の職業別自殺者数及び構成比

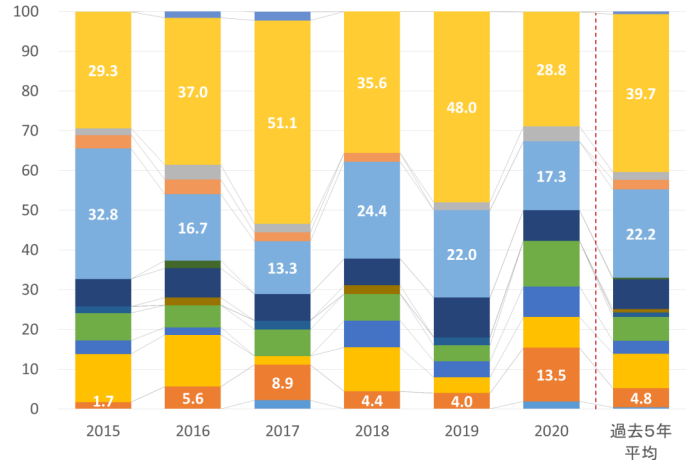
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -22-1 自殺者数 (人)



図表 i -22-2 構成比 (%)



■ 自営業・家族従業者 ■ 専門・技術職 ■ 管理的職業 ■ 事務職 ■ 販売従業者 ■ サービス従業者  
■ 技能工 ■ 保安従業者 ■ 通信運輸従業者 ■ 労務作業員 ■ その他 ■ 学生・生徒等  
■ 主婦 ■ 失業者 ■ 年金・雇用保険等生活者 ■ その他の無職者 ■ 不詳

- 2020年における「30歳代」の男女別、職業別の自殺者数をみると、女性では「その他の無職者」(15人)が最も多く、次いで「主婦」(9人)、「専門・技術職」(7人)の順となっている。このうち、「専門・技術職」の自殺者数は過去5年平均を上回っている(図表 i -22-1)。

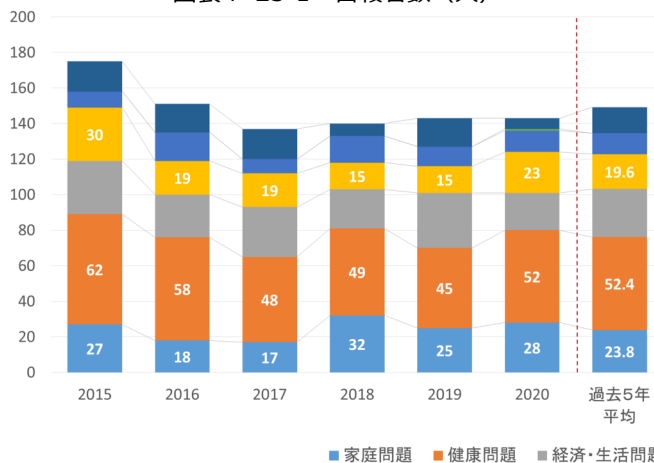
図表 i -23

30歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

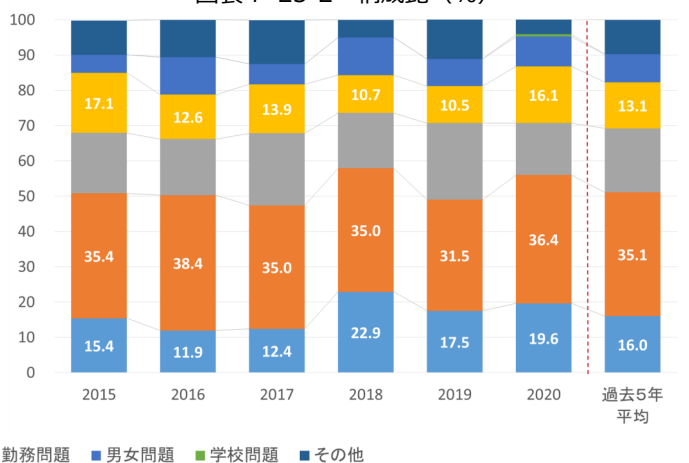
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -23-1 自殺者数 (人)



図表 i -23-2 構成比 (%)



■ 家庭問題 ■ 健康問題 ■ 経済・生活問題 ■ 勤務問題 ■ 男女問題 ■ 学校問題 ■ その他

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「30歳代」の原因・動機別の自殺者数をみると、「健康問題」(52人)が最も多く、次いで「家庭問題」(28人)、「勤務問題」(23人)の順となっている(図表 i -23-1)。
- これらについて構成比をみると、いずれの比率も過去5年平均を上回っている(図表 i -23-2)。

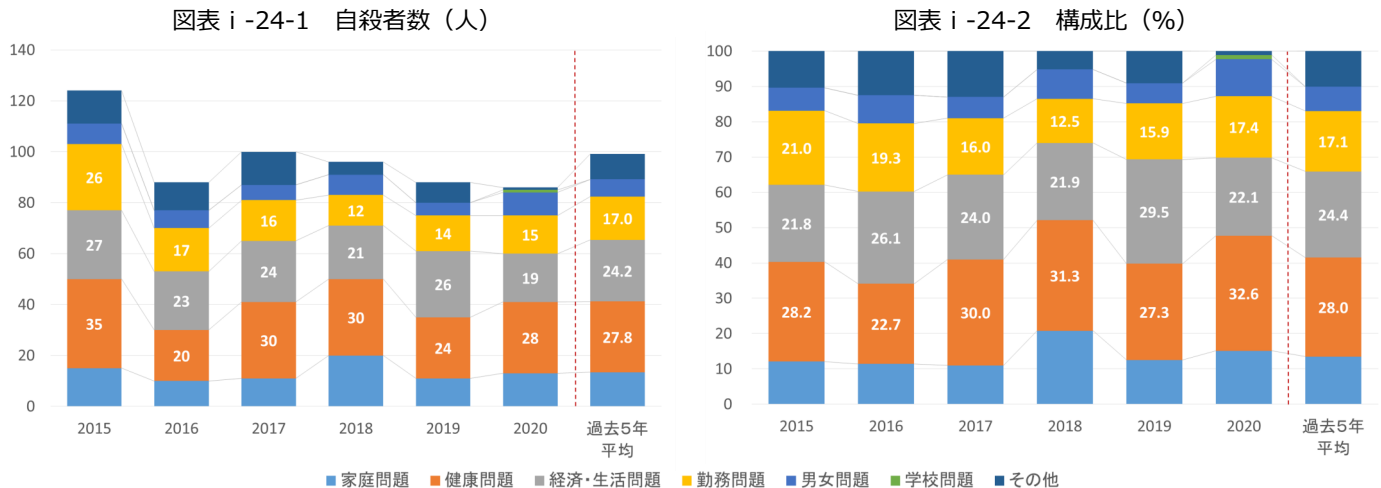
3 30歳代

図表 i -24

30歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「30歳代」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、男性では「健康問題」(28人)が最も多く、次いで「経済・生活問題」(19人)、「勤務問題」(15人)の順となっている(図表 i -24-1)。
- これらについて構成比をみると、「健康問題」と「勤務問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -24-2)。

図表 i -25

30歳代の原因・動機の詳細

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=86	n=88	n=496	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	10.5%	14.8%	16.5%	健康
2	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	9.3%	4.5%	2.0%	健康
3	夫婦関係の不和	7.0%	6.8%	6.7%	家庭
3	負債(多重債務)	7.0%	3.4%	3.8%	経済生活
3	職場の人間関係	7.0%	6.8%	5.8%	勤務
6	病気の悩み・影響(統合失調症)	5.8%	3.4%	4.0%	健康
6	負債(その他)	5.8%	9.1%	4.6%	経済生活
8	失恋	4.7%	0.0%	2.2%	男女
9	仕事の失敗	3.5%	2.3%	3.0%	勤務
9	仕事疲れ	3.5%	4.5%	5.4%	勤務

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「30歳代」の男性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」、「夫婦関係の不和」・「負債(多重債務)」・「職場の人間関係」の順となっている(図表 i -25)。



3 30歳代

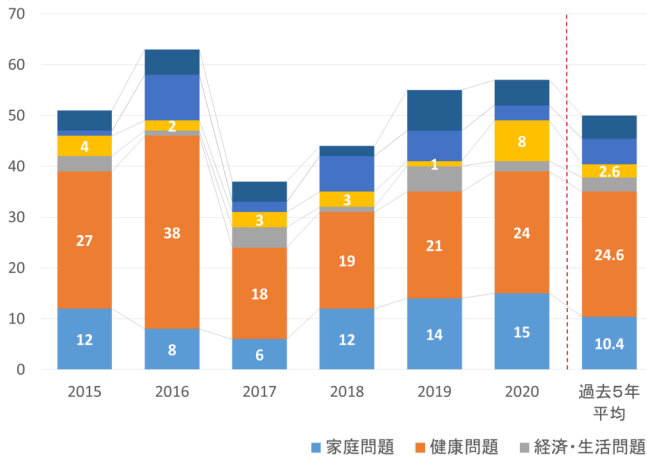
図表 i -26

30歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

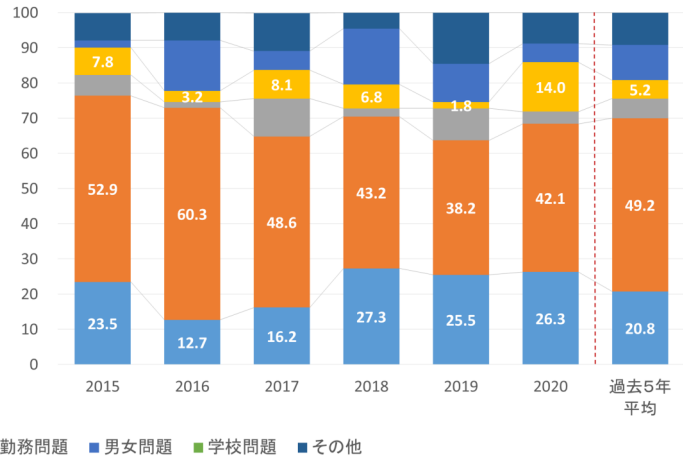
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -26-1 自殺者数 (人)



図表 i -26-2 構成比 (%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「30歳代」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、女性では「健康問題」(24人)が最も多く、次いで「家庭問題」(15人)、「勤務問題」(8人)の順となっている(図表 i -26 -1)。
- これらについて構成比をみると、「家庭問題」と「勤務問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -26-2)。

図表 i -27

30歳代の原因・動機の詳細

女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=57	n=55	n=250	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	29.8%	23.6%	29.6%	健康
2	夫婦関係の不和	8.8%	3.6%	3.6%	家庭
3	職場の人間関係	7.0%	0.0%	1.2%	勤務
4	子育ての悩み	5.3%	7.3%	5.6%	家庭
4	病気の悩み・影響(統合失調症)	5.3%	3.6%	8.8%	健康
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.3%	3.6%	6.4%	健康
7	親子関係の不和	3.5%	7.3%	3.2%	家庭
7	家族の将来悲観	3.5%	0.0%	1.2%	家庭
7	家庭問題その他	3.5%	3.6%	2.0%	家庭
7	職場環境の変化	3.5%	0.0%	0.4%	勤務
7	仕事疲れ	3.5%	0.0%	2.0%	勤務
7	後追い	3.5%	0.0%	0.8%	その他
7	その他問題その他	3.5%	9.1%	5.6%	その他

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「30歳代」の女性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「夫婦関係の不和」、「職場の人間関係」の順となっている(図表 i -27)。

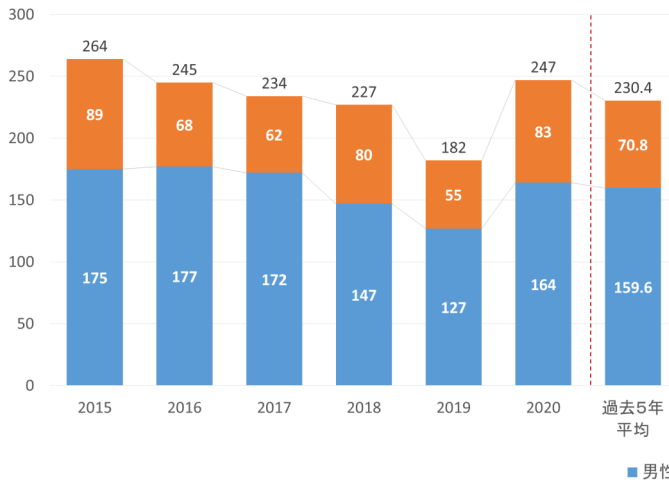
## 4 40歳代

図表 i -28

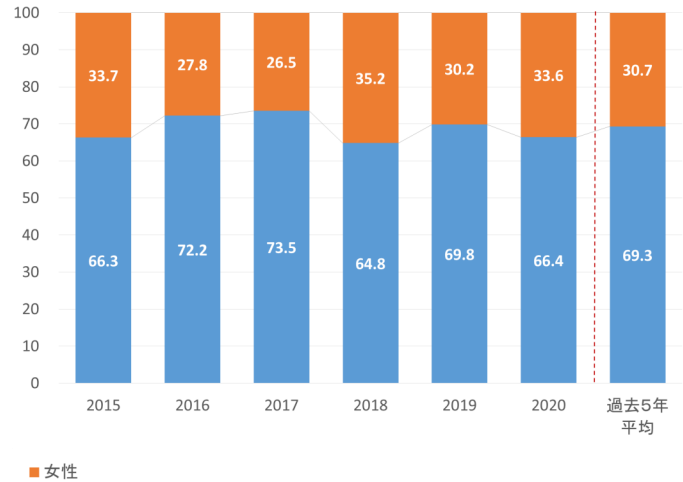
## 40歳代の自殺者数及び構成比

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -28-1 自殺者数 (人)



図表 i -28-2 構成比 (%)



- 2020年における「40歳代」の自殺者数をみると、247人となっており、過去5年平均（230.4人）を上回っている。男女別の自殺者数をみると、男女ともに過去5年平均を上回っている（図表 i -28-1）。
- 2020年における「40歳代」の自殺者数の男女構成比をみると、女性の割合は33.6%を占め、過去5年平均（30.7%）を上回っている（図表 i -28-2）。

4 40歳代

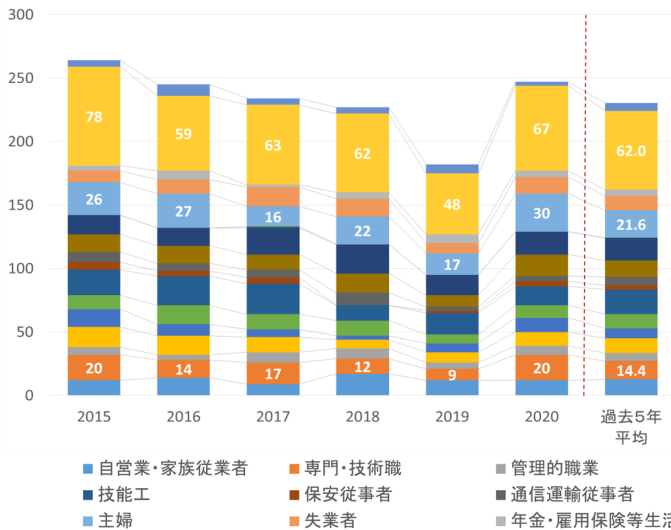
図表 i -29

40歳代の職業別自殺者数及び構成比

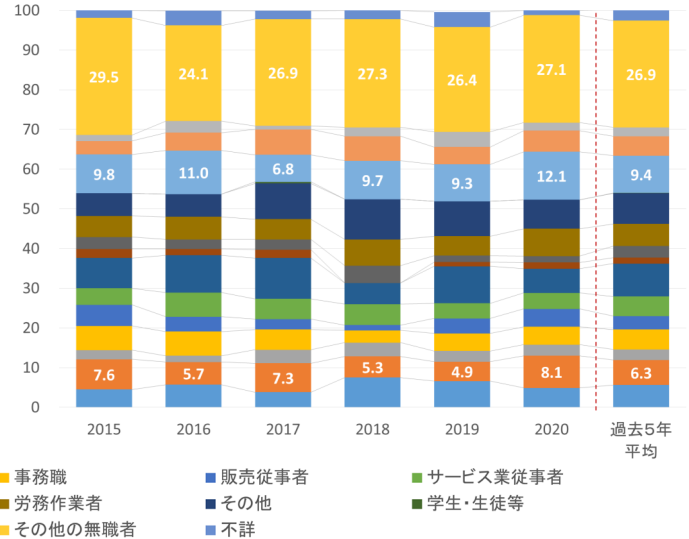
総数

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -29-1 自殺者数 (人)



図表 i -29-2 構成比 (%)



- 2020年における「40歳代」の職業別の自殺者数をみると、「その他の無職者」(67人)が最も多く、次いで「主婦」(30人)、「専門・技術職」(20人)の順となっており、いずれの自殺者数も過去5年平均を上回っている(図表 i -29-1)。

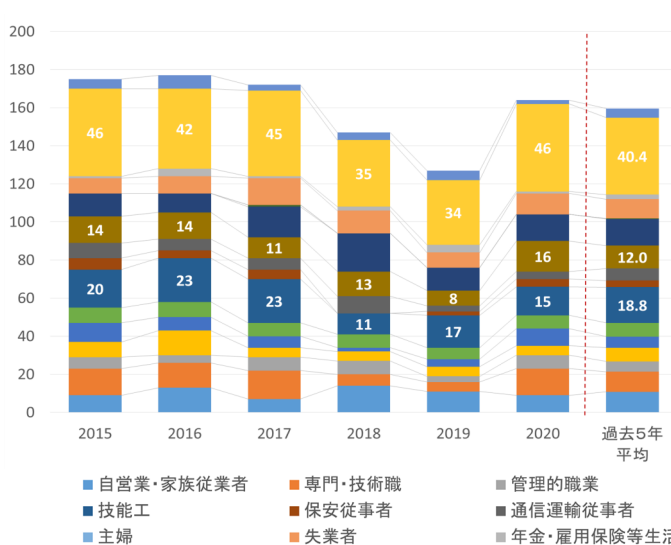
図表 i -30

40歳代の職業別自殺者数及び構成比

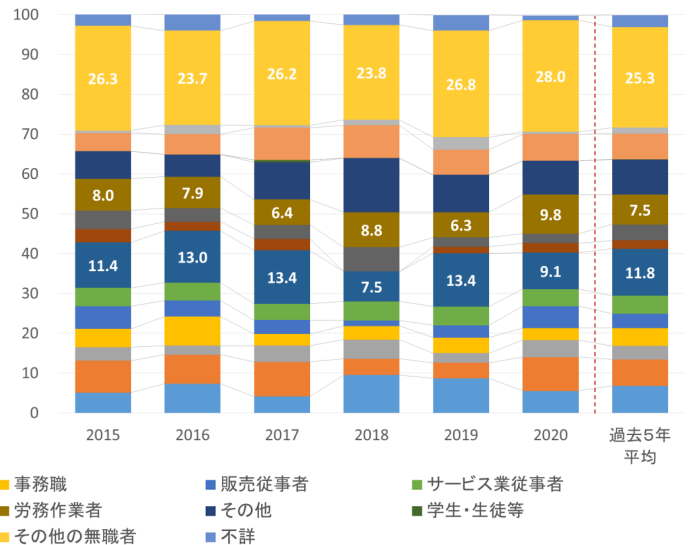
男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -30-1 自殺者数 (人)



図表 i -30-2 構成比 (%)



- 2020年における「40歳代」の男女別、職業別の自殺者数をみると、男性では「その他の無職者」(46人)が最も多く、次いで「労務作業員」(16人)、「技能工」(15人)の順となっている。このうち、「その他の無職者」と「労務作業員」の自殺者数は過去5年平均を上回っている(図表 i -30-1)。



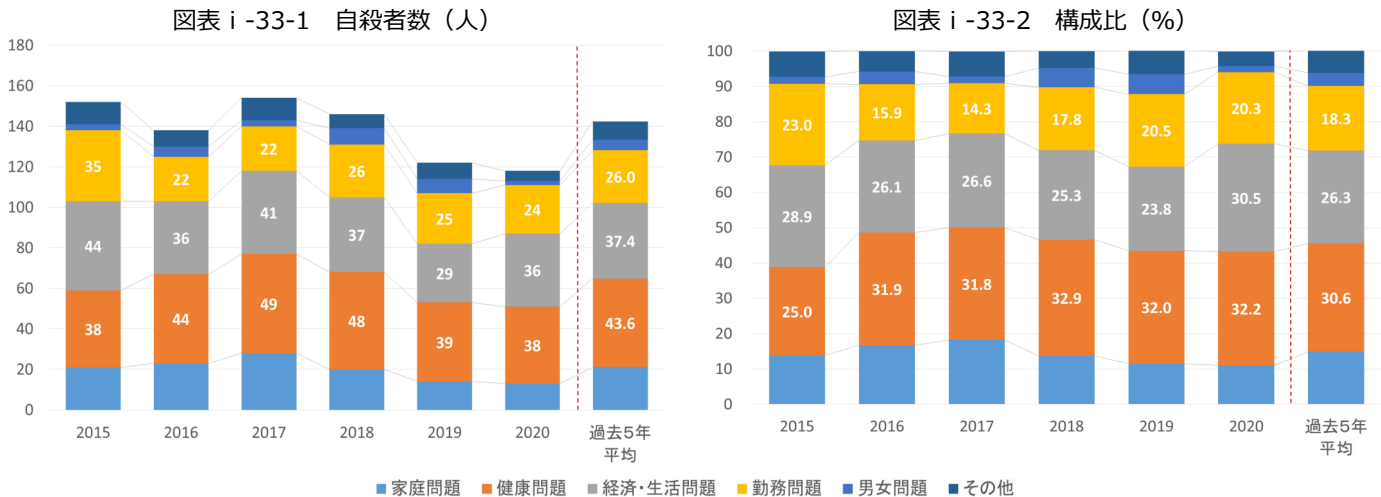
4 40歳代

図表 i -33

40歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「40歳代」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、男性では「健康問題」(38人)が最も多く、次いで「経済・生活問題」(36人)、「勤務問題」(24人)の順となっている(図表 i -33-1)。
- これらについて構成比をみると、いずれの比率も過去5年平均を上回っている(図表 i -33-2)。

図表 i -34

40歳代の原因・動機の詳細

男性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=118	n=122	n=712	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	14.4%	20.5%	17.3%	健康
2	生活苦	8.5%	4.9%	6.6%	経済生活
2	仕事疲れ	8.5%	8.2%	5.1%	勤務
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	6.8%	1.6%	2.9%	健康
5	事業不振	5.9%	2.5%	2.5%	経済生活
6	夫婦関係の不和	5.1%	3.3%	5.6%	家庭
6	病気の悩み(身体の病気)	5.1%	4.1%	4.8%	健康
8	病気の悩み・影響(統合失調症)	4.2%	4.9%	3.4%	健康
8	失業	4.2%	2.5%	3.4%	経済生活
8	負債(その他)	4.2%	3.3%	4.6%	経済生活
8	職場の人間関係	4.2%	6.6%	4.6%	勤務

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「40歳代」の男性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「生活苦」・「仕事疲れ」の順となっている(図表 i -34)。

4 40歳代

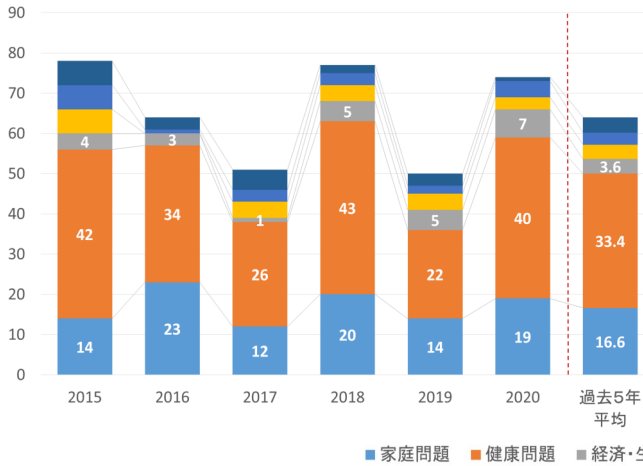
図表 i -35

40歳代の原因・動機別自殺者数及び構成比

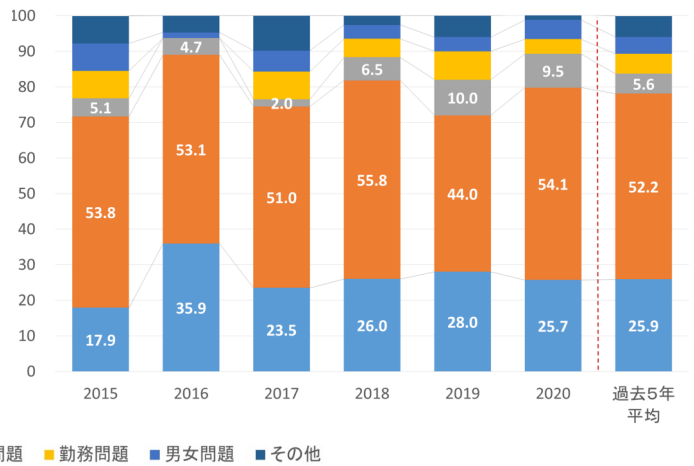
女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

図表 i -35-1 自殺者数 (人)



図表 i -35-2 構成比 (%)



注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「40歳代」の男女別、原因・動機別の自殺者数をみると、女性では「健康問題」(40人)が最も多く、次いで「家庭問題」(19人)、「経済・生活問題」(7人)の順となっている(図表 i -35-1)。
- これらについて構成比をみると、「健康問題」と「経済・生活問題」の比率が過去5年平均を上回っている(図表 i -35-2)。

図表 i -36

40歳代の原因・動機の詳細

女性

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=74	n=50	n=320	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	33.8%	26.0%	26.6%	健康
2	家庭問題その他	6.8%	0.0%	2.5%	家庭
2	病気の悩み・影響(統合失調症)	6.8%	8.0%	10.0%	健康
2	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	6.8%	0.0%	6.6%	健康
5	病気の悩み(身体の病気)	5.4%	2.0%	5.0%	健康
5	生活苦	5.4%	2.0%	1.6%	経済生活
7	親子関係の不和	4.1%	8.0%	4.4%	家庭
7	家族の将来悲観	4.1%	0.0%	2.2%	家庭
7	子育ての悩み	4.1%	8.0%	5.0%	家庭
10	夫婦関係の不和	2.7%	6.0%	6.6%	家庭
10	家族の死亡	2.7%	0.0%	2.2%	家庭
10	経済生活問題その他	2.7%	4.0%	1.6%	経済生活

注) 原因・不詳は除外している。原因・動機については、自殺者1人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数と異なる。

- 2020年における「40歳代」の女性の主な原因・動機の詳細をみると、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「家庭問題その他」・「病気の悩み・影響(統合失調症)」・「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」の順となっている(図表 i -36)。